

事務事業名		海岸堤防水門管理委託業務		☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業					
政策体系	政策名	03 やすらぎある安全なまちづくりの推進		事業期間		予算科目					
	施策名	07 防災対策の推進		☐ 単年度のみ		会計	款				
	基本事業名	01 地震・津波対策の推進		☒ 単年度繰返 (開始 昭和41 年度～)		項	目				
根拠法令				☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度		事業					
所属	部課名	大船渡地区消防組合 大船渡消防署		※全体計画欄の総投入量を記入		01	09				
	課長名	大久保守正						01	04		
	係名	警防係	電話							27-2119	00
	担当者	紺野統弘	内線							433	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		全体計画(※期間限定複数年度のみ)									
東日本大震災により、大多数の水門が破壊された。 復旧工事とともに、全ての県所管の水門、扉門の遠隔操作・自動化を県で計画中である。 ※平成25年度から津波被害を受けていない水門の管理委託契約を締結により、実績を入力。				総投入量 (千円)		事業費	財源内訳	国庫支出金			
						人件費	都道府県支出金				
							地方債				
							その他				
							一般財源				
							事業費計 (A)	0			
							正規職員従事人数				
							延べ業務時間				
							人件費計 (B)	0			
							トータルコスト(A)+(B)	0			

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
① 手段(主な活動)				⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)					
前年度実績(前年度に行った主な活動)				名称		単位			
水門管理:第6分団1基、第7分団4基、計5基の維持管理を契約により実施。 ※震災により被災した水門の契約は締結せず。				ア	点検業務	回			
今年度計画(今年度に計画している主な活動)				イ	点検結果報告	回			
水門管理:第6分団1基、第7分団4基、計5基の維持管理を契約により実施予定。 ※震災により被災した水門の契約は締結せず。				ウ	非常時及び訓練時の水門等開閉操作	回			
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等				名称		単位			
県で設置している水門				カ	水門の数	基			
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)				キ					
水門を常時良好に維持管理し、有事の際に備える。				ク					
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)				⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)					
水門を適切に維持管理することにより、有事の際の確実な作動が担保される。しいては高潮、津波による被害を最小限に抑え、住民の安全につながる。				名称		単位			
				サ	良好に維持された水門	基			
				シ					
				ス					
(2) 総事業費・指標等の推移									
		年度	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円			63	63	34	34
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円						
	人件費	事業費計 (A)	千円	0	0	63	63	34	34
		正規職員従事人数	人			2	2	2	2
		延べ業務時間	時間			60	60	60	60
		人件費計 (B)	千円	0	0	240	240	240	240
		トータルコスト(A)+(B)	千円	0		303	303	274	274
⑤活動指標	ア	回			3	3	3	3	
	イ	回			3	3	3	3	
	ウ	回			0	0	0	0	
⑥対象指標	カ	基			6	6	5	5	
	キ								
	ク								
⑦成果指標	サ	基			6	6	5		
	シ								
	ス								

事務事業ID	1118	事務事業名	海岸堤防水門管理委託業務
--------	------	-------	--------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

昭和49年より津波、高潮被害の軽減のため防波堤が設置されたが、道路や水路を横断しているため通常開放されている門扉が設置された。このために有事には、この門扉を閉鎖したり、日頃は点検を行う必要があり開始された事業である。
震災により海岸付近に設置の水門は損壊したが、平成25年度より、被害を受けていない水門の管理委託契約を締結した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

津波来襲時に、水門を閉める作業は非常に危険を含んでいる。このため、岩手県では水門・陸門などの全てを遠隔操作できる制御局設置の計画がされている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

現在、消防団がこの事業を実施しているが、危険なので全ての水門を早期に遠隔操作できるよう希望する。(消防団長)

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	水門を良好に維持管理し、有事には水門を閉鎖し海岸付近に居る市民や工作物などを高潮、津波などから守れる。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	防災対策の根幹として実施すべき事業であり、十分な公共性を有する。	
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	水門閉鎖が、遠隔操作などにならない限り縮小はできない。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	全ての水門などを遠隔操作としても、定期的な点検は欠かすことが出来ないため、必要な事業である。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	高潮、津波等の災害発生時に機器の故障により閉鎖出来ない事態が生じる恐れがある。閉鎖出来なかった場合は、住民や各種工作物等に被害が及ぶ恐れがあるため、廃止・休止は出来ない。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	有事の際の操作担当として、消防団が適当であり、かつ、他に連携する組織がないため連携の可能性はない。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	住民は避難行動が第1であり、住民の協力は考えていない。また、遠隔操作水門の増加であるが莫大な費用を要する。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	現在の費用で、いつ発生するか判らない災害に対し、即対応できる企業、団体は他にはない。	
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	海岸地域の保護による受益者は、沿岸住民だけでは限らないので公正である。	

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
① 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
② 有効性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
③ 効率性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 平成25年度より、津波被害を受けていない水門の管理委託を締結したことにより、事業再開となる。 次年度以降も継続する。 (県計画の沿岸水門復旧完了後は、その都度、管理委託契約数が増加する見込み。)		左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							

2次評価者	(職 名) ※原則として施策の主管課長 大船渡消防署長	(氏 名) 大久保守正
-------	--------------------------------	----------------

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																						
① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)																						
☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている																						
② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)																						
☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																						
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由																					
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	 適切な事務執行がなされている。																					
② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)	(5) 改革・改善による期待成果																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 平成25年度より、津波被害を受けていない一部水門の管理委託を締結したことにより、事業を再開。 水門を適切に維持管理し、住民や工作物等を高潮や津波から守ることは重要なことであり、次年度以降も継続して事業を実施する。 (県計画の沿岸水門復旧完了後は、その都度、管理委託契約数が増加する見込み。)	左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
	<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
